

北海道・壮瞥町における

中学校武道授業（剣道）の実践報告

壮瞥町は北海道の南西部に位置する人口2490人（平成31年3月末）の小さな町である。その昔、先住のアイヌ民族のひとつが洞爺湖の水が唯一流出し、落下する勇壮な滝を見て、滝（ソー）のある川（ベツ・ベツ）と呼んだことが地名の語源とされている。特別天然記念物・昭和新山のある町、大相撲の第55代横綱北の湖の出身地でもある。戦前戦後を通じて、鉄鉱石や硫黄を産出する鉱業も盛んで、昭和33年のピーク時には、人口が8000人を超え、中学校も5校あった。その後、海外からの原料の輸入、産業構造の変化により、鉱山は閉鎖が相次ぎ、人口は急減した。現在は農業と観光、医療・福祉が主産業となっている。



昭和新山と三松正夫像

壮瞥町教育委員会

